

コスモス ニュースレター EMC & 安全

Cosmos Newsletter on EMC & Safety

発行日 2015-10-01

No. 69



株式会社コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation
〒516-2102 三重県度会郡度会町大野木 3571 番地 2

本社・大野木事業所

<http://www.safetyweb.co.jp/>

記事の配列は、概ね、国際規格を最初におき、米、欧、オセアニア、アジアの順です。
コスモス ニュースレター EMC & 安全 目次

エグゼクティブサマリー Executive Summary	2
IEC: 規格解説: CISPR 15 Ed. 8.1 (2015-03) 電気照明及び類似機器の無線妨害特性規格	3
IEC: 新規格リスト	8
ISO: 新規格リスト	12
国際テーマ: KEBS は、安全な「輸入標準化マーク」を実施	13
国際テーマ: 湾岸諸国は、低電圧電気機器に関する共通規則を導入	14
国際テーマ: コスモス・ニュースから各国認証関連情報を再掲	15

USA: FCC: 無線デバイス機器認証に関するコメント期間の延長	16
USA: FCC: John Deere 社による TVWS 規則適用免除の請願に関し、許可しかつ公表	16
USA: FCC: iRobot 社委員会規則適用免除の請願	17
USA: FCC: KDB: 100 MHz~6 GHz の範囲で動作する機器を対象とした SAR 測定	18
USA: CPSC: UL 325: 家庭用ガレージドア自動開閉装置安全規格	19
USA: DOE: 省エネプログラム: 外部電源試験手順	19
USA: CEC: (米国) カリフォルニア州電気機器エネルギー効率規則情報	20
USA: DOE: 省エネプログラム: 最近の連邦官報による通知	20
USA: ANSI/UL: 新規格リスト	22
USA: IEEE: 新規格リスト	23

EU: チュートリアル: 欧州への商品出荷の基礎知識: CE マーキングの貼付 (4/4)	25
EU: CENELEC: 解説: 低電圧指令 整合規格リスト EU 官報により発表 (2015/9/11)	26
EU: CENELEC: 整合規格リスト発行: 低電圧指令、小型中型及び大型電源変圧器指令等	27
EU: 車両認証分野における UNECE 規制の翻訳及び公開の状況	28
EU: ローミングチャージを無しにし、オープンインターネットを保証する協定を歓迎	29
EU: 機械指令 2006/42/EC のもと 安全部品としての安全フェンス	30
EU: CENELEC: 新規格リスト	32
EU: ETSI: 新規格リスト	35
オーストラリア: 単一適合マーク(RCM) 移行期間終了 2016/3/1 迄に使用開始のこと	35

中国: CNCA: 強制性製品認証機関および試験所の補助指定決定の通知	36
中国: 新規格リスト	36
台湾: 試験を適用する電動圧せん断機械商品の関連試験規定の改正に関する通知	38
台湾: 預告修正「熱陰極蛍光灯管及びその交流電子式安定器商品の関連試験規定」	38
台湾: 電動スクーターの関連国家規格を整合、電気自動車産業の発展を推進	39
台湾: 新規格リスト	39
韓国: 電磁両立性基準制定(案) 行政予告	40
韓国: 簡易無線局の無線設備などその他の業務用無線設備の技術基準の一部改正(案)	41
韓国: 無線設備の適合性評価処理方法の一部改正(案) 行政予告	41
韓国: 電気用品安全基準の改正及び廃止予告 告示(公告)	42

総務省: 「マルチメディア機器の電磁両立性 - エミッション要求事項」報告(案)	43
総務省: 「電気照明及び類似機器の無線妨害波特性の許容値及び測定法」一部答申	44
総務省: 電波法施行規則にワイヤレス電力伝送システム関連技術基準を追加	44

ちょっといっふく: 小クイズコーナー 欧州新 3 指令 (LVD、EMC 等) での要求事項	15
コスモス・コーポレーション: 自動車部品の耐水試験についてのご案内	24
社長の独り言	45

IEC: 規格解説: CISPR 15 Ed. 8.1 (2015-03) 電気照明及び類似機器の無線妨害特性規格

2015-03 付け発行

- 適用範囲 (1)での変更:
第二義機能として照明を組み込む機器は第一義機能に関する試験中照明機能をオンにしたまま試験すれば第一義機能に関する規格による評価を行うだけで十分であることを明確に規定。また、本規格から除外される機器例に変更あり。
- 測定の不確かさ (11)での変更:
従来は「適合決定は、測定計装の不確かさを考慮に入れないで適合測定の結果に基づき決定すること」と規定されていたが、今版 Ed. 8.1 で、「本規格の限度値との適合遵守の決定は CISPR 16-4-2 に従った測定計装の不確かさを考慮に入れること」と、大きく変更された。

USA: FCC: 無線デバイス機器認証に関するコメント期間の延長

- 昨号報告 記事「USA: FCC: Part 0, 2, 15, 18: 無線デバイスの機器認証及び電子ラベリング」(FCC 15-92)に対するコメント期間が延長された。新たなコメント提出期日は 2015 年 10 月 9 日、回答期日は 2015 年 11 月 9 日である。

USA: FCC: KDB: 100 MHz～6 GHz の範囲で動作する機器を対象とした SAR 測定

- 100 MHz～6 GHz の範囲で動作する機器を対象とした SAR 測定に関する追加ガイダンスが用意されている。

EU: CENELEC: 解説: 低電圧指令 整合規格リスト EU 官報により発表 (2015/9/11)

- "低電圧指令 (LVD) 2006/95/EC" (12 December 2006)のもとでの、欧州整合規格の参照番号 タイトルを 記載した最新リストが、2015/9/11 付け欧州連合の官報により、発表された。新規格 (又は、新修正版) が 142 件 (内訂正版 AC は 102 件) リストアップされた。
- これら規格は、最遅適用日までに、適用しなければならない。従来の最新リストは 2015/4/17 日付けのものである。
- 主な重要規格は以下の様である:
オーディオ/ビデオ、情報通信技術機器 - 安全要件 EN 62368-1 : 2014 / AC : 2015 等

総務省: 「マルチメディア機器の電磁両立性 - エミッション要求事項」 報告 (案)

- 電波利用環境委員会 報告 (案) に対する意見募集ー「国際無線障害特別委員会 (CISPR) の諸規格」のうち「マルチメディア機器の電磁両立性 - エミッション要求事項」ー CISPR 32 「マルチメディア機器の電磁両立性 - エミッション要求事項」を国内規格として採用する場合の技術的諸問題について審議を行った。審議の結果、本報告 (案) のとおり一部答申 (案) をとりまとめた。審議の中心である国際規格とのデビエーションについて、本報告 (案) のように決定した。本案に対する意見募集が行われる。

社長の独り言

2015 年 9 月 23 日

濱口 慶一

今年の夏は日差しが強烈でした。台風と大雨による災害がありましたが、皆様には大きな影響も無く、健やかに過ごされていることを祈念します。また、不運にも災害に遭われた地域の早期復興を願っています。

毎回、社長の一言として、サーバーに設定した予定から、原稿提出期限のお知らせも沢山設定しているのですが、見逃しやら、読んでもツイツイ忘れてしまい、結局は担当者からのお叱りでハイハイ何時までに仕上げますと追い込まれての作業になります、私の性格が出ているように感じる一時ですね。

私がこの業界に入った半年位の時期に、製品安全の勉強をする時にはどうすればより早く、正確に理解を進めることが出来るのかが、大きな壁として自分に立ちはだかった記憶があります。

約 37 年位前には、国内での製品安全のセミナーなども非常に少なく、参加することや、セミナー自体の存在も知ることが無かったように思います。そのような時に、あるお客様から「ドイツ製のスイッチング電源を入手しました。濱口さん、この電源の基板のパターンはどう見ても基礎絶縁の距離しかないように見えるが、調べて欲しい。」との依頼を受けて、詳細をチェックしました。

当時は、規格書はあっても業界の常識のような理解(後で大きな間違いと気付くが)が先行していた時代と思います。業界の誰かが判断したことが絶対間違いないとされていたり、規格書の翻訳にも沢山間違いがあったりしたと記憶しています。そのスイッチング電源を調べていくと、一次側 230V の電源電圧から、二次側出力 12V 直流出力回路がどうしても基礎絶縁の構造しかありません。VDE の認証マークもあったように思います。その頃は、絶対に二重絶縁の構造が必要と理解していた中でこの確認作業は、色々な書物との出会いの始まりだったように感じます、日本国内には製品安全の解説書などが全く無い時代でしたので、外国の書物の中にヒントが無いかを搜しました。その中で、SELV(安全超低電圧回路)は必ず危険電圧回路から二重絶縁構造で分離することと説明された文面と、IEC335 などに組み込まれた絶縁構造の規定のところが次のように、明確に理解できました。

操作者の感電防止には、操作者が直接接触出来る電気回路は SELV 回路とし、その回路は基礎絶縁と付加絶縁の二重絶縁構造、二重絶縁構造と等しい性能の強化絶縁構造、又は基礎絶縁と SELV 回路にしたい電気回路の一端を保護接地回路に適切に接続するか、又は一次側と SELV 回路にしたい回路間に、基礎絶縁構造と保護接地に接続したシールド板を入れた構造で、危険電圧から分離されている必要があります。

感電の危険性の防止 = 基礎絶縁 + 付加絶縁 = 強化絶縁 = 基礎絶縁 + 保護接地(PE)という自分流の式を考え付いて、それを今まで、家庭用の製品、情報機器、計測機器、医療機器の安全規格理解に使用してきました。間違っていると指摘されたことは 1 度もありません。これは、IEC 規格では、安全確保の原則として二重化が求められていることだと理解しました。機器を設計する際には、機器の仕様を満足させる中で、規格に文章で規定されている、いないに関わらず、機器を操作する、関わる人の生命や財産に危害を与えないように機器を設計する必要があるということは、回避する手法を二重化して、危険防止するというのが IEC 規格の基本である、ということを学べたと理解しています。回避する手法の一つを取扱説明書への危険性を説明するとの手法は間違った方法であるとは思いますが。機器を設計した人以外の機器に関係する人々の安全を正しく確保するには、取扱説明書もない状態でも、十分に危険性がない状態に設計されていることが求められているというのが、この世界で私が生きてきた中での理解です。

先のドイツ製のスイッチング電源については、二次回路を保護接地回路に接続する方法で、一次回路と二次回路の SELV との絶縁構造を基礎絶縁とした設計である旨を依頼者の方に報告させていただきました。

秋も深まりつつありますが、皆様には御自愛下さい、益々のご活躍を祈念して筆をおきます。

※注意：規格によって SELV の規定が異なります。詳細は適用規格の参照をお願いいたします。

● ニュースレターの内容

本誌は、**EMC、安全、及び省エネ (EMC, Safety and Energy Conservation)** 分野に係り、世界の主要機関/地域により実施されかつ電気電子製品デバイスに適合が求められている規格/法規制について、その関連情報を、お届けいたします。

重要情報を幅広く調査、収集、かつ、要約して掲載し、当該分野の最新情報、潮流をすばやく捉えることができるようにいたします。情報源を明示しますので、貴殿の関心により、更に深い調査が可能です。

本誌は各国への技術法規適合製品を試験 認証 開発 管理される部門の方にとり必読の内容です。

- 対象機関/地域: IEC 等国際機関、並びに、FCC, UL を含む米国、EU, CENELEC, CEN を含む欧州、その他オセアニア、及び日本を含むアジアの各地域

- 情報源: カバー対象の機関、地域の Web site、或は情報サービス。又、ご協力のご同意を頂いた日本国内及び中国・韓国・台湾などの当該分野権威者から提供された情報。

● 本誌購読のお申し込み方法

コスモス・コーポレイション 業務推進部まで sales@cosmos-corp.com
Tel 0598-30-5225 Fax 0598-30-5571

- 発行: 年間 11 回発行。各号 A4 版、40 ページ前後。

- 価格: 各号 2,000 円 (年間購読の場合 1 年 11,000 円)(消費税込)

● 本誌の内容案内、ご購読案内は、<http://www.safetyweb.co.jp/services/other/publication/>

本誌の記事が正確であるよう最大の努力を払っておりますが、間違いが含まれていることがあるかもしれません。本情報をご使用になられる場合はご自身でもう一度ご確認ください。

株式会社コスモス・コーポレイションは、下記 Web site の運営体からそれぞれ個別の条件の下、Web 情報の引用、転載につき許可を頂いております。翻訳転載された記事の著作権は原著権者に属します。本誌掲載記事の無断転載を禁じます。本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。

国際機関	IEC: International Electro technical Commission	国際電気標準会議
米州	A2LA: American Association for Laboratory Accreditation	米国試験所認定協会
	ANSI: American National Standards Institute	米国規格協会
	FCC: Federal Communications Commission	連邦通信委員会
	IEEE: Institute of Electric and Electronics Engineers	米国電気電子学会
	CSA: Canadian Standards Association	カナダ規格協会
欧州	CENELEC: European Committee for Electro technical Standardization	欧州電気技術標準化委員会
	ECO : European Communications Office	欧州通信オフィス
	ETSI: European Telecommunications Standards Institute	欧州電気通信標準協会
	EU/EC: European Union/European Commission	欧州連合/欧州委員会
オセアニア	ACMA: Australian Communications and Media Authority	オーストラリア通信/メディア局
	NZ: New Zealand Government Radio Spectrum Management	ニュージーランド政府 RSM
アジア	BSMI: Bureau of Standards, Metrology & Inspection	台湾經濟部標準檢驗局
	CNS: Chinese National Standards Online Service	台湾中国国家規格検索システム
日本	METI: Ministry of Economy, Trade and Industry	経済産業省
	MIC: Ministry of Internal Affairs and Communications	総務省
	NPB: National Printing Bureau	独立行政法人国立印刷局
	VCCI: Voluntary Control Council for Interference	一般財団法人 VCCI 協会

Cosmos Corporation is granted the copyright authorization for the reproduction of the Web site information from the above listed organizations with the individual condition. Further use, modification, redistribution of the information on the Cosmos Newsletter on EMC& Safety is strictly prohibited.

コスモス ニュースレター EMC &安全 (Cosmos Newsletter on EMC & Safety) 2015-10-01 (No. 69)

発行所: 株式会社コスモス・コーポレイション 松阪事業所 <http://www.safetyweb.co.jp/>

〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地

発行人: 濱口慶一

編集人: 倉品光雄 iNARTE 認定 Certified EMC Engineer (EMC-002315-NE)

© 2015 株式会社コスモス・コーポレイション Cosmos Corporation

本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。